

平成30年度 嬉野市立嬉野中学校 学校評価計画

<p>1 学校教育目標</p> <p>夢に向かう颯爽とした生徒の育成 ～「嬉中まなび力」「嬉中しぐさ力」「嬉中きずな力」～</p> <p>1 嬉野中学生のまなび</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業を大切に、真剣に、主体的に勉強する生徒 人の教えに学び夢に向かう生徒 <p>2 嬉野中学生のしぐさ</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的なしぐさができる生徒 学校: あいさつ、掃除、部活動 家庭: 朝食、自主学習、約束(テレビやゲームの時間等) おもてなしの精神を実行できる生徒 <p>3 嬉野中学生のきずな</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生から中学生へ成長できる生徒(小中連携) 地域との絆が深まる生徒(コミュニティ・スクール) 人と人との絆を大切に生徒 	<p>2 本年度の重点目標</p> <p>1 まなびの資質</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力向上につながる学習規律の確立と家庭学習の継続(課題の工夫、自学ノート、読書の推進) 一人一人の特性に配慮し、個の実態に応じた支援の充実(特別支援教育の充実) <p>2 しぐさの資質</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭・小学校と連携し、基本的生活習慣の確立(挨拶・掃除・時間厳守) <p>3 きずなの資質</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権尊重を意識させた活動、社会や地域貢献を意識させた活動(出番・役割・承認)
--	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① まなびの資質・・・学力向上につながる学習規律の確立と家庭学習の継続 (課題の工夫、自学ノート、読書の推進) ...一人一人の特性に配慮し、個の実態に応じた支援の充実 (特別支援教育の充実)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	指導力の向上 研究の推進	各教科で計画的に研究を進め、授業改善に取り組む。 生徒へのアンケート「授業の内容がだいたいわかる」の項目で80%を上回る。	テーマに沿った研究授業を行い、全職員が授業公開を行う。また、全職員で参観する授業研究会を年3回実施し、指導力の向上を図る。 生徒が自分の考えや意見を表現できるような学習形態を工夫する。
	○特別支援教育の充実	教員の専門性と意識の向上	支援を要する全ての生徒に対して、個別の支援計画を作成し、活用する。 全ての教師が教室環境や板書の仕方、生徒の状況に配慮した指導の在り方等を理解できるようにする。	強いこだわりのある生徒や理解に時間のかかる生徒に対する指導方法について研修を深め、学習環境のユニバーサルデザイン化を進める。 特別支援委員会やケース会議を適宜開催し、学校全体での支援体制を構築する。 特別支援教育に関する研修会を定期的に実施し、専門性の向上を図る。 特別支援スーパーバイザーの指導助言を日々の教育活動に取り入れる。
教育活動	●学力の向上	指導方法の改善	TTの授業に効果を感じる生徒の割合を90%以上にする。 生徒へのアンケート「勉強がわかりやすくなった」、「勉強が楽しくなった」の項目で前年度の3%増加を目指す。	「主体的・対話的で深い学び」のある実践を行うため単元計画を見直し、生徒の意欲を引き出し、伝え合う力の向上を目指す。 TTを積極的に活用し、生徒一人一人の能力に応じてきめ細かな指導を行う。特にT2の役割を明確にし、効果的な指導の在り方を追求する。
		家庭学習の習慣化 (個に応じた支援等)	生徒、職員のアンケート「毎日家庭学習をしている」の項目で90%を上回る。 自学ノートの質の向上を図る。	自主学習について、具体的方策を提示する。 家庭での時間の使い方など、生活リズムについて振り返らせる。 学年で統一した課題を用意する。 個に応じた課題の質や量を工夫する。

② しぐさの資質・・・家庭・小学校と連携し、基本的生活習慣の確立 (挨拶・掃除・時間厳守)

教育活動	●心の教育	おもてなしの精神できちんとした挨拶と毎日の丁寧な掃除	生徒、職員のアンケート「挨拶ができています」の項目の好意的な評価が90%を上回る。 生徒へのアンケート「掃除を時間いっぱい意欲的に行っている」の項目と、職員へのアンケート「掃除区域で生徒と共に掃除を時間いっぱい行っている」の項目でそれぞれ好意的評価が90%を上回る。	職員が自ら、積極的に挨拶や掃除を行い、手本を示す。 掃除では、年度初めに掃除の仕方を一か所ずつ確認し、その後も継続的に指導を行う。 生徒会活動でも挨拶や掃除に関する新聞発行や呼びかけをする。
		人権教育と情報モラル教育の充実	道徳の時間の指導法の工夫に努める。 「生きる力の教科書」を活用した情報モラル教育の授業を年間1回以上実施し、生徒の意識の向上を図る。	授業で学んだことを大切にするため、学年の道徳コーナーを作る。活動の様子は学級通信で保護者にも伝える。QUTESTの考察を行い、人権の視点に立った授業や体験活動を行う。 各学年、「生きる力」の教科書を使用し、年間1回以上情報モラルに関する単元の授業を実施する。
教育活動	●健康・体づくり	運動・栄養・休養のバランスのとれた生活習慣の確立	運動に積極的に取り組む生徒の割合を90%以上にする。 朝食を摂って登校する生徒の割合を90%以上にする。 睡眠時間を7時間以上取る生徒の割合を90%以上にする。	体育の授業や運動部活動に適切に、意欲的に取り組む。 家庭と連携し、「早寝、早起き、朝ごはん」に積極的に取り組む。 ノーテレビ・ノーゲームデーとの取組と連携し、家庭での時間の使い方の改善を図る。

③ きずなの資質・・・人権尊重を意識させた活動、社会や地域貢献を意識させた活動 (出番・役割・承認)

学校運営	○地域・保護者・小学校等との連携	学校運営協議会の充実 情報発信 小中連携研修会	学校に期待されている事柄をしっかりと踏まえ、地域の誇れる教育活動を展開する。 授業参観や学校・PTA行事等、保護者の参加率を前年度より上げる。 嬉野中学校区として「9年間で育てる」ことを意識し、小学校との連携を深める。	学校運営協議会の協力を得て、地域や保護者を巻き込み行事の効果的な在り方を探る。また、「総合的な学習の時間」を活用して、生徒が地域の目を向ける場面を設定する。 「学校便り」や「HP」などの充実を図り、分かりやすく生徒の活動や学習の状況、行事等の情報発信を行う。 些細なことでも、小中の職員が互いに情報交換がしやすい環境を整え、研修においてはより一層深まりのあるものにする。
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめの未然防止・早期発見・早期対応・早期解消	「いじめを受けていない、いじめをしていない、いじめを見逃していない」という回答が、95%以上になるよう努める。 SNSの危険性を理解している生徒の割合を90%以上にする。	年3回以上いじめアンケートとSNS調査を行い、いじめ撲滅とSNSの危険性への意識を高めさせる。 教員に対してもSNSや情報リテラシーについての意識を高める研修を行い、指導力の向上を図る。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	時間外勤務を昨年度よりも10%削減する。 行事の精選や校務分掌の整理、役割分担の明確化に取り組む。 効率的な業務遂行のためにICTの有効活用をしやすい環境を整える。	各教職員の勤務時間を確実に把握する。 行事ごとにその必要性を吟味する。また、総合的な学習の時間の指導内容を整理し、焦点化する。 校務サーバーを整理し、校務分掌とフォルダを一体化させ、データの共有など効率化を図る。 休日の部活動時間の削減を積極的に進める。
------	--------------------	------------	--	--

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目